

アムスルだより

No. 6 1 2003年 5月10日



Akajima Marine Science Laboratory 阿嘉島臨海研究所

〒901-3311 沖縄県島尻郡座間味村字阿嘉179

ホームページもご覧下さい。http://www.amsil.or.jp

TEL:098-987-2304 FAX:098-987-2875 E-mail:amsil@ryukyu.ne.jp



砂地のイモムシ型掃除機

- ナマコの仲間 その1 -

「海の生き物で何がきらいですか？」と聞いてみると、もちろん人によって様々ですが、「ナマコ」と答える人がけっこういます。同じ棘皮動物のガンガゼやオニヒトデはとげだらけでいかにも害がありそうなので、嫌がられるのは良くわかるのですが、海底に横たわっているナマコがどうしてきらわれるのでしょうか。聞いてみると、ヌメヌメした表面がきらいとか、でろんと横たわっている姿が気持ち悪いとか、見た目の印象できらわれているようで、すこしナマコがかわいそうになります。今回は、このナマコの仲間についてお話ししましょう。

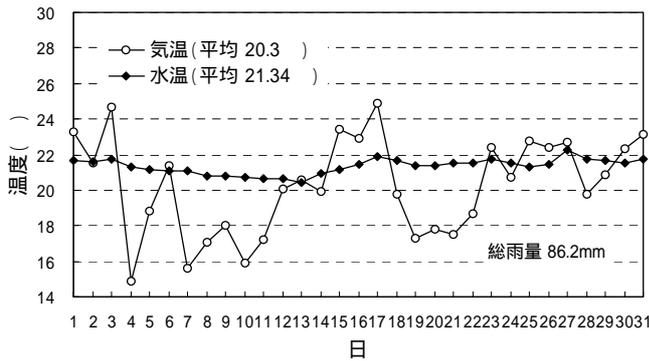
阿嘉島のまわりには、たくさんのナマコがすんでいます。ざっと思い出せるものを並べてみるただけでも、ジャンメナマコ、クロナマコ、ニセクロナマコ、オ

オクロナマコ、リュウキュウフジナマコ、バイカナマコ、シカクナマコ、アカミシキリ、クロエリナマコ、オオイカリナマコなど、10種類くらい簡単にあげられますから、きちんと調べてみれば、もっとたくさんの種類が見つかることでしょう。これらの中でも、オオイカリナマコは、特に評判が悪いようです。砂地の海底で細長く伸びていて、ぱっと見たとき「ウミヘビ？」と間違える人もいます。縮むと30cm位のもので、伸びると1m以上、時には2mにもなり、このやたらに長くぶよぶよとした体つきが嫌われる原因なのでしょう。

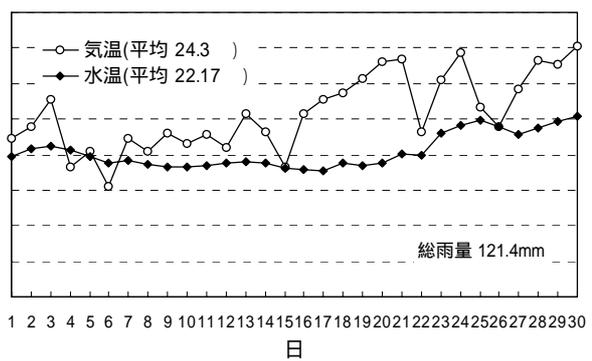
これらのナマコたちは、海底でごくゆっくりとしか動きませんし、素早く移動することはありませんから、魚たちに食べられても良さそうなものですが、まずそういうことはありません。それは、ナマコの体表で分泌されるサポニンという物質が、魚に対して毒となるからです。サポニンが血液にはいると、血液の成分がこわされ、それを食べたりえらで吸い込んだりした魚は、死んでしまうこともあるのです（余談ですが、このサポニンにはカビを防ぐ働きがあり、カビの一種が原因で起こる水虫の薬として使われているそうです）。ナマコは、このサポニンのおかげで、あまり動かなくても、食べられることもなく、また体表に海藻な

定点観測

2003年3月



2003年4月



ど他の生物がつくこともなく生きることができるのだと考えられています。

ナマコのイメージを良くしようと書き始めたのですが、その気持ちとはうらはらに、ますます気味の悪い動物と思わせてしまったでしょうか。最後になりますが、ナマコの良いところをひとつ紹介しておきます。実は、ナマコは海の中でも重要な役割を果たしているのです。ナマコは主に海底の砂を食べて、砂のすき間や表面にあるゴミなどを栄養にしています。つまり、ナマコは砂の掃除屋さんというわけです。そうやってナマコが掃除して、かき混ぜてくれることによって、他の動物がもぐったり住んだりすることのできるきれいな砂底が保たれているのです。

このほかにもナマコは、再生したり、ほかの動物のすみかになったり、おもしろいことがたくさんあります。ナマコ好きになってもらうために、また次の機会でそのことについてお話しすることにしましょう。

阿嘉島の海より

- サンゴの産卵 -

今年もそろそろサンゴの産卵の季節がやってきました。

阿嘉島臨海研究所では15年前の設立当初から、「サンゴ礁造園」を一つの大きなテーマとして調査・研究を続けてきま

した。サンゴ礁造園というのは、サンゴの有性生殖（産卵）を利用して荒廃したサンゴ礁の回復を促そうというものです。ただ、オーストラリアのグレートバリアリーフでサンゴの一斉産卵が確認されたのが20数年前で、まずは阿嘉島周辺での産卵の実態調査から始めなければなりませんでした。それ以降、サンゴの産卵調査や、その時期に得られるプラヌラ幼生を使った実験が毎年おこなわれ、今ではサンゴ礁造園までもう一歩というところまで来ています。

今年もサンゴの産卵時期にスケジュールを合わせた多くの研究者が研究に来ることになっています。地元のダイビング事業者からも産卵時期について多くの問い合わせがありました。しかし、上のグラフでもわかるように、今年は水温が上がる時期が遅く、4月下旬まで真冬とかわらない低い水温が続いたため、ミドリイシサンゴの卵の成熟が遅れています。そのため産卵日の予想がつきませんでした。5月の中旬にも何ヶ所かで卵の観察をしてきましたが、まだ真っ白な状態の卵がほとんどでした。これから水温の上昇とともに卵は真っ赤に成熟してきますが、現時点での予想としては、5月は16日の満月からずっと遅れた22日前後にごく一部のサンゴが産卵するかもしれませんが、大部分は6月の12～14日あたりになるのではないかと考えています。